

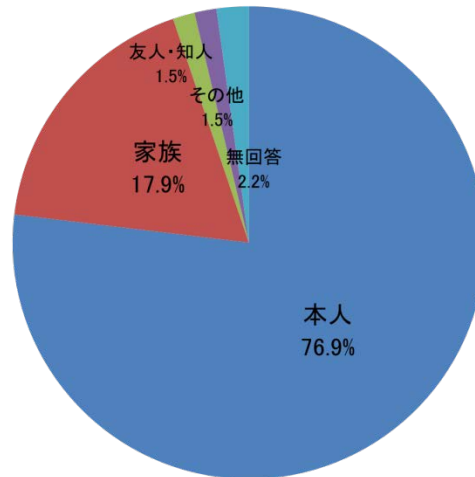
【アンケート結果】

1. 「回答者」及び「腎臓に不安のある方」の背景情報

1-1. 「回答者」の属性

回答者 2,905 名の内、「腎臓に不安のある本人」からの回答が 76.9%。ご家族からの回答が 17.9%であった。

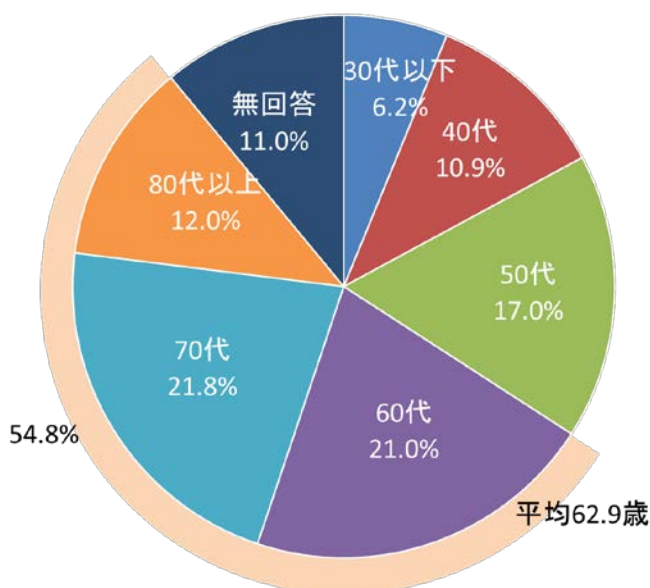
腎臓に不安をお持ちの方はどなたですか？ (n=2905)



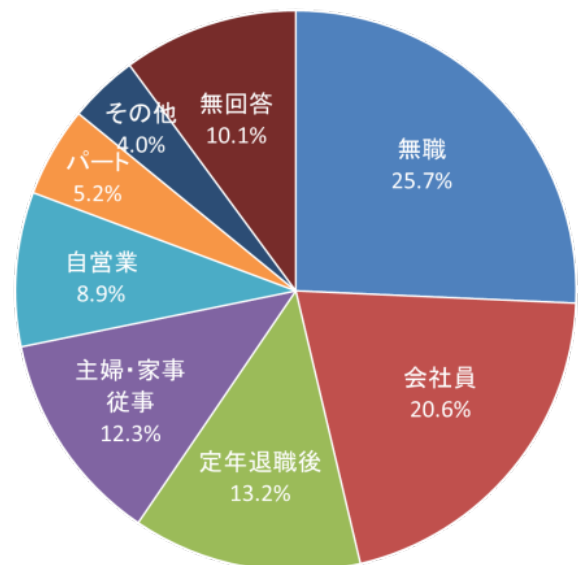
1-2. 「腎臓に不安がある方」：年齢、就業状況

「腎臓に不安のある方」の年齢は、60代以上が5割を超え、平均年齢は62.9歳。就業状況では、「無職」、「定年退職後」を合わせて5割弱、「会社員」「自営業」「パート」と、収入を得る職業に就いている方が約35%であった。

年齢 (n=2905)



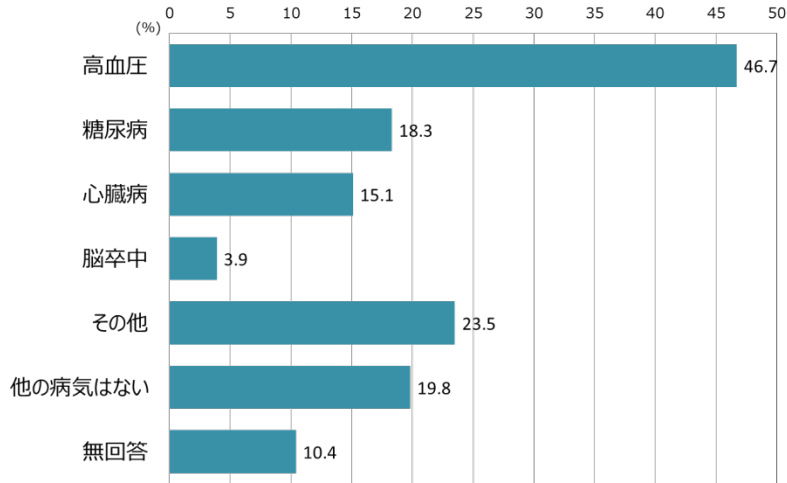
就業状況 (n=2905)



1-3. 「腎臓に不安がある方」：その他の疾患

半数近くは高血圧を併発しており、糖尿病が2割弱。他の病気は無いとの回答が約2割であった。

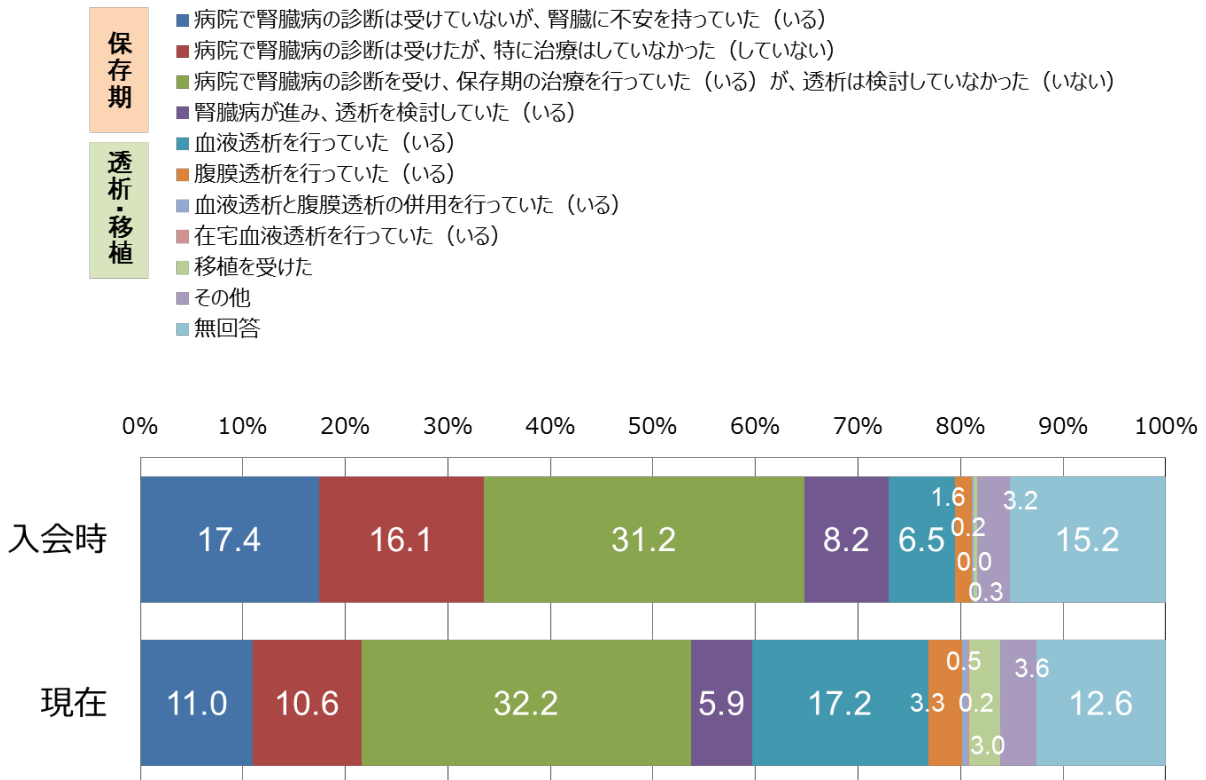
腎臓病以外に患っている病気はありますか。(複数回答可)



1-4. 「腎臓に不安のある方」：入会時と回答時の健康状態

健康状態では、入会時に「保存期」であった方が7割で、「透析・移植」を受けていた方は1割程度。アンケート回答時現在では、「保存期」が6割で、「透析・移植」を受けた方は2割強と、入会してから透析に至った方が1割程度いると考えられる。

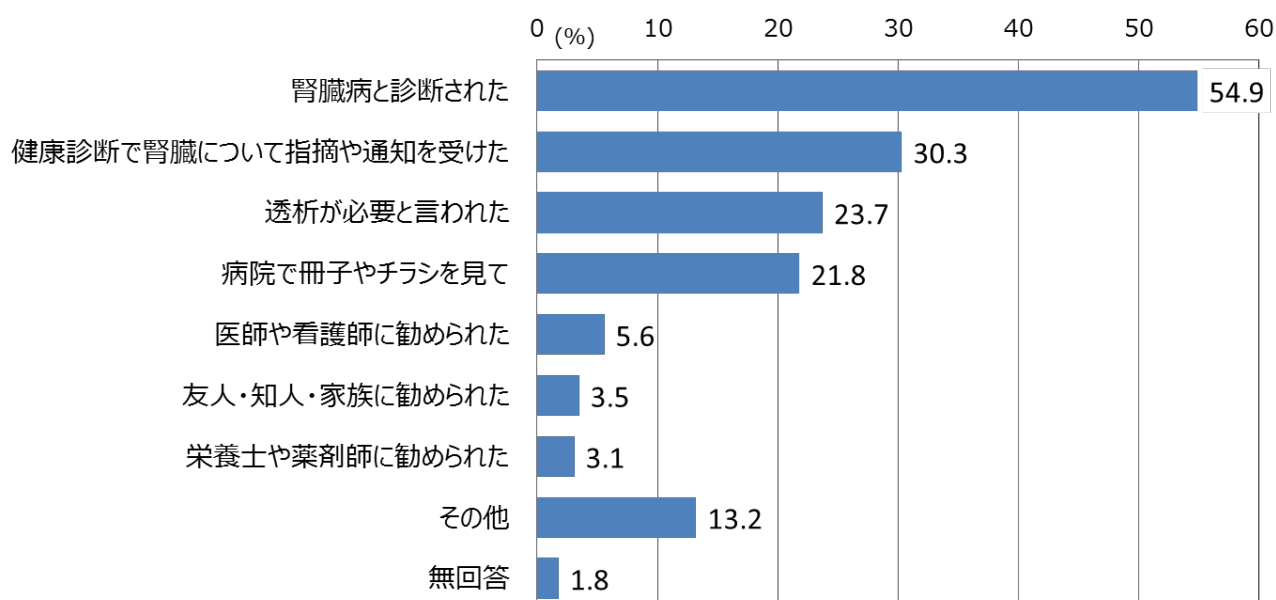
健康状態 (n=2905)



1-5. 回答者：腎臓サポート協会利用のきっかけ

腎臓サポート協会や「腎臓病なんでもサイト」を利用しようと思ったきっかけは、「腎臓病と診断された」が最も多く5割を超えている。

利用しようと思ったきっかけ（複数回答可）



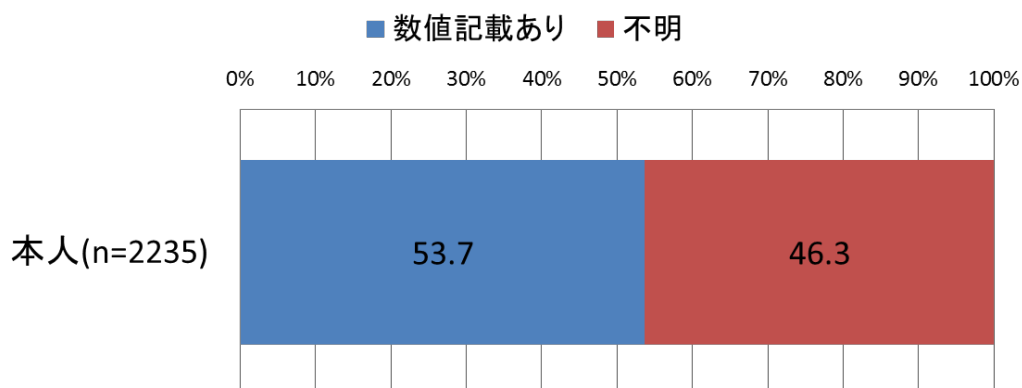
2. 腎臓病患者さんの実態について

腎臓病患者さんの実態について、(1) 全体、(2) 保存期患者、(3) 透析者に分けて検証した。

2-1-1. 腎臓病患者さんの実態（全体）：病気や治療についての知識・理解

腎機能を表す数値(eGFR)を認知している割合は、腎臓に不安のある方本人であっても5割程度であった。

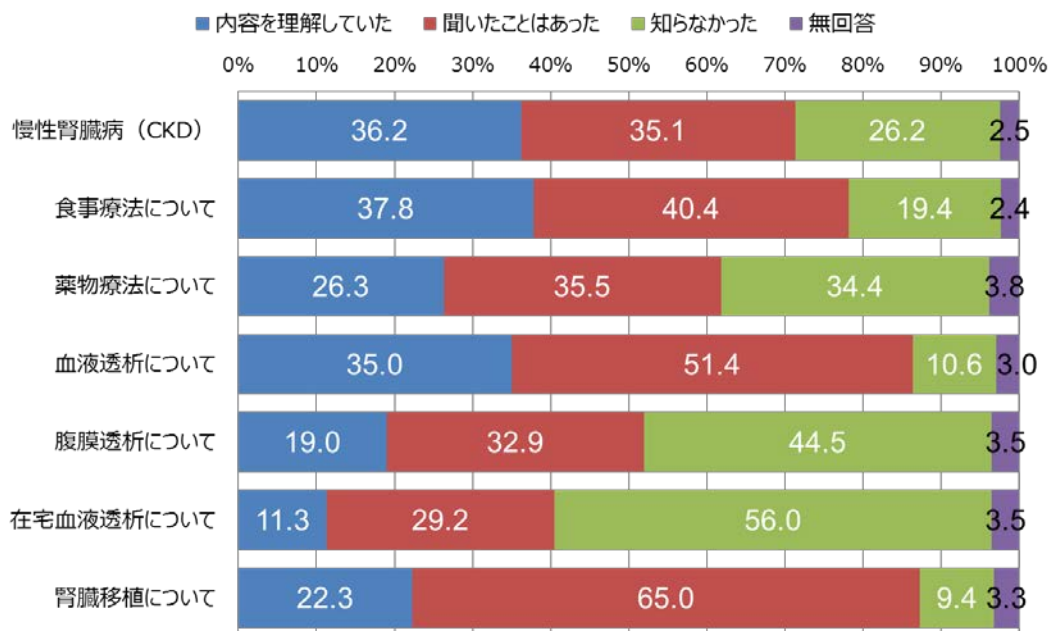
腎臓の機能を表す数値（eGFR）を教えてください。



2-1-2. 腎臓病患者さんの実態（全体）：腎臓サポート協会入会前の病気や治療についての理解

全ての項目で、入会前から「理解していた」が4割を下回り、CKDを理解していた方は36%であった。特に、腹膜透析や在宅血液透析は理解していた割合が低かった。

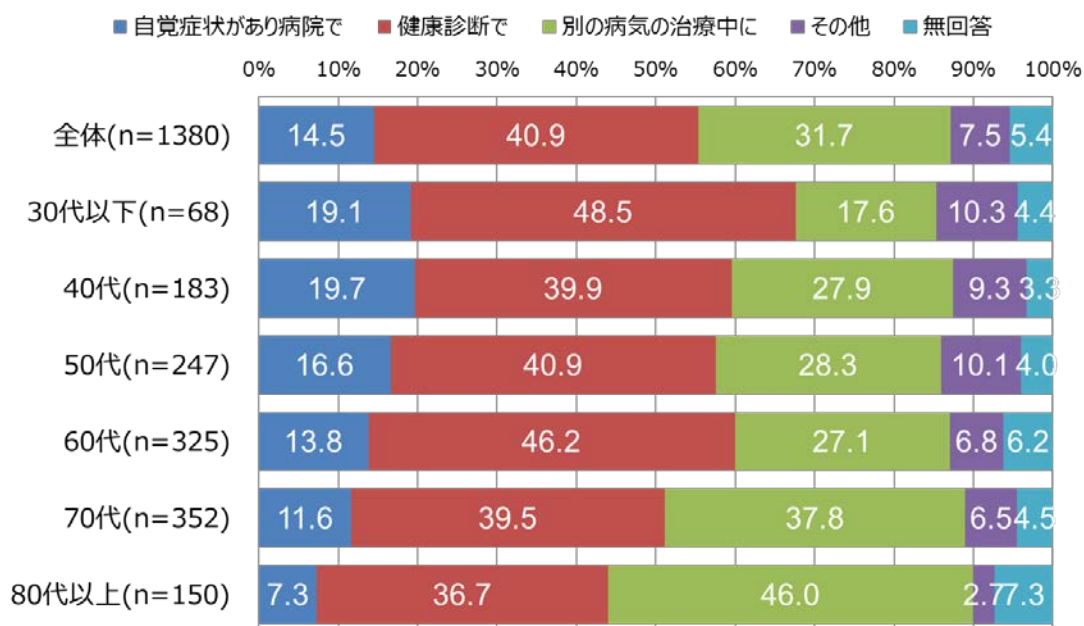
腎臓サポート協会入会前に、下記の項目についてご存じでしたか。(n=2905)



2-2-1. 腎臓病患者さんの実態（保存期）：腎臓病発見のきっかけ（年齢別）

現在「保存期」の方の腎臓病発見のきっかけでは、年齢別にみると、70代以降になると他の病気の治療中に発見される割合が多くなる傾向が見られた。

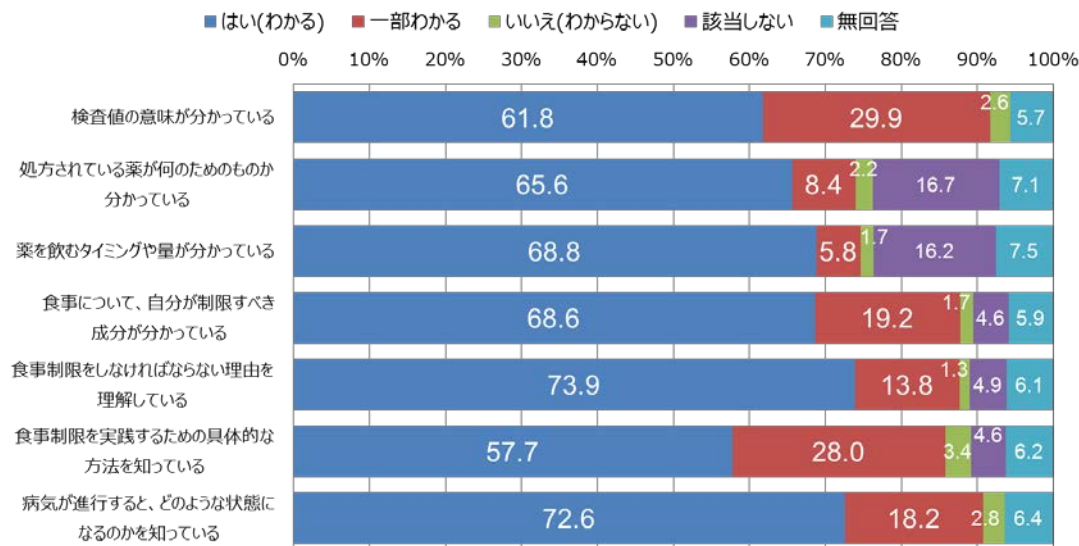
腎臓の病気が発見されたきっかけを教えてください (n=1380)



2-2-2. 腎臓病患者さんの実態（保存期）：検査値、処方薬・服薬、食事療法の理解度

食事については、「自分が制限すべき成分」や、「制限する理由」は約 7 割が理解している一方、実践のための具体的な方法がわかると回答したのは 6 割弱であった。

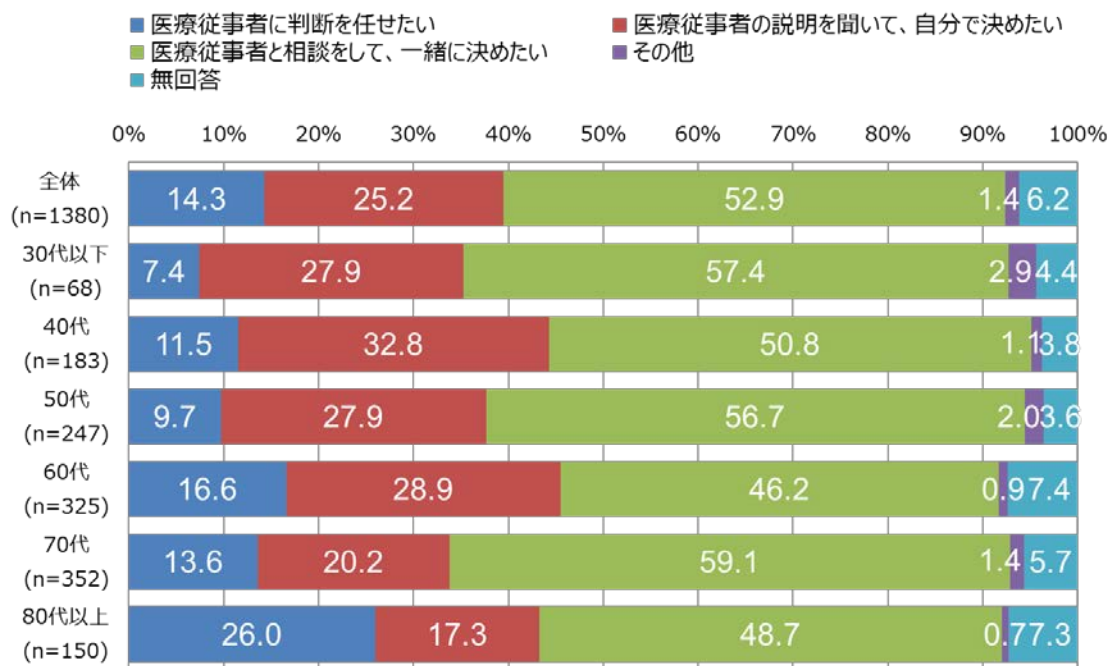
検査値・処方薬/服薬・食事療法の理解度（n=1380）



2-2-3. 腎臓病患者さんの実態（保存期）：透析や移植が必要になった場合の決定意向

もし、腎代替療法が必要となった場合には、「医療従事者と相談して一緒に決めたい」が 5 割を超え、次いで「医療従事者の説明を聞いて自分で決めたい」が 2 割を超える。80 代以上の高齢者では「医療従事者に判断を任せたい」が増えるものの、26%に留まっている。

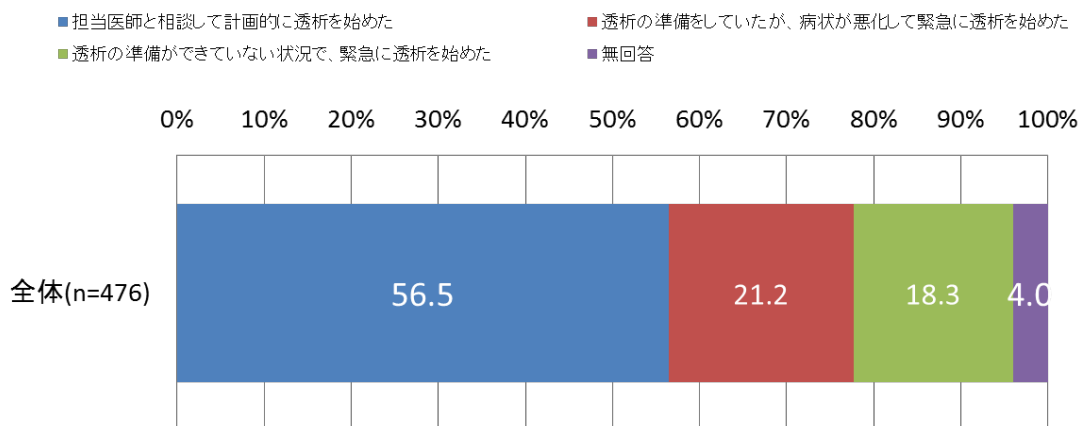
もしも透析または移植が必要となった場合、治療についてどのように決めたいですか？（n=1380）



2-3-1. 腎臓病患者さんの実態（透析者）：透析導入時の状況

2 割弱が「透析の準備ができていない状況で緊急に透析を始めた」との回答であった。

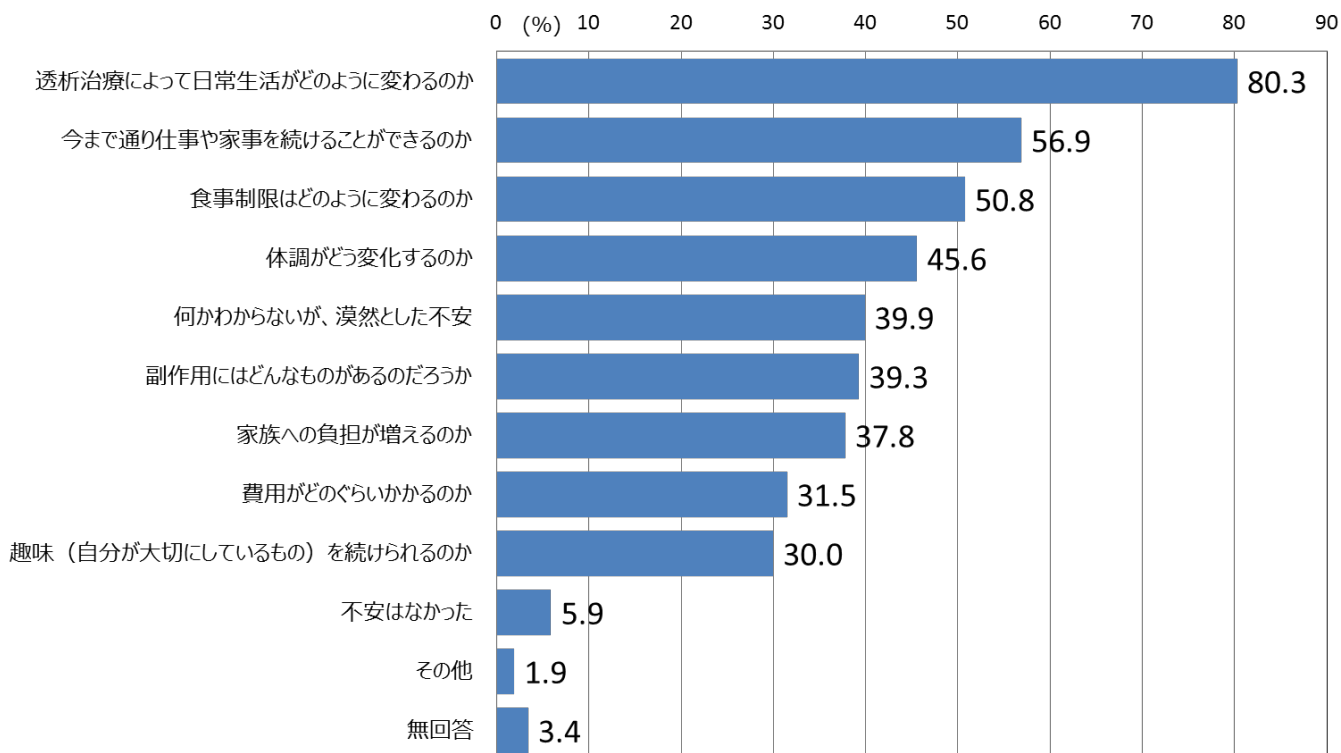
透析を始めた時の状況を教えてください (n=476)



2-3-2. 腎臓病患者さんの実態（透析者）：透析が必要になった時の不安

透析が必要と言われた時不安に思ったことは、「透析治療によって日常生活がどのように変わるのか」が最も多く 8 割であった。次いで「今まで通り仕事や家事を続けることができるのか」、「食事制限はどのように変わるのか」、「体調がどう変化するか」について、4 割以上の方が不安だったとしている。

透析が必要と言われた時、不安に思ったことを教えてください（複数回答可）



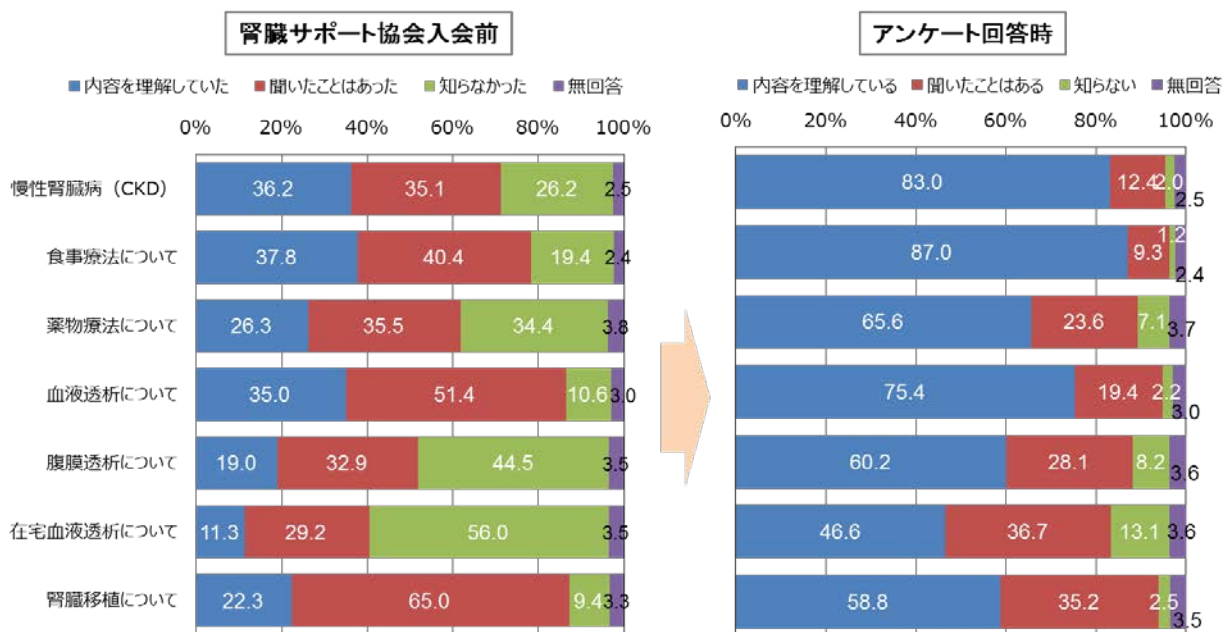
3. 情報が果たす役割

腎臓サポート協会への入会前後の状況を比較することで、情報提供の果たす役割を検証した。

3-1. 病気や治療法についての理解度

腎臓サポート協会への入会前とアンケート回答時の、病気や治療法についての理解の変化を確認した。いずれの項目においても、「内容を理解している」割合が高くなっており、現在も「知らない」は1割程度以下となっている。

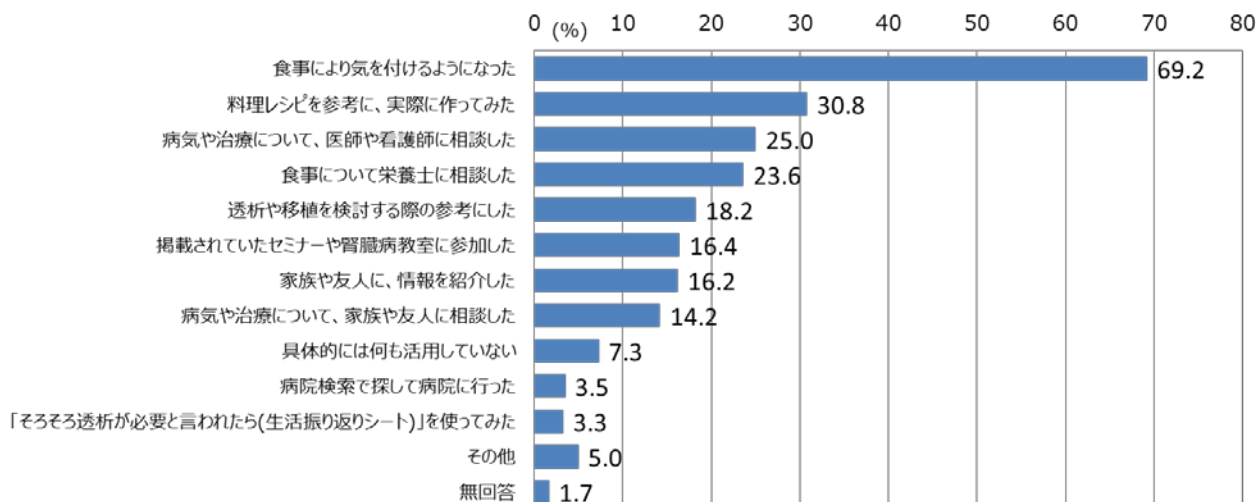
病気や治療法についての理解状況 (n=2905)



3-2. 腎臓サポート協会で得た情報の活用

「食事により気を付けるようになった」が7割で最も多い。次いで、「料理レシピを参考に実際に作ってみた」、「医師や看護師に相談した」、「食事について栄養士に相談した」が2~3割程度挙げられている。

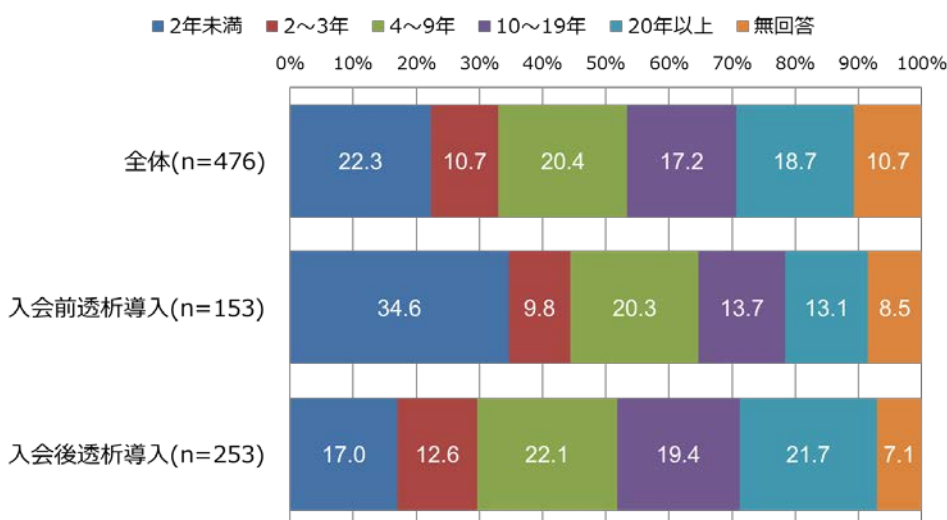
腎臓サポート協会から得た情報をどのようなことに活用しましたか (複数回答可)



3-3. 腎臓病発見～透析導入までの期間

全体として、腎臓病発見～透析導入までの期間では、2年未満が約2割であったが、協会の入会前に透析を導入した群と、入会後に導入した群で透析開始までの期間の違いを比較したところ、入会後に透析導入の方が、入会前に透析導入よりも、腎臓病の発見から透析導入まで2年以上期間がある割合が高かった。

腎臓病が発見されてから透析導入までの期間



4. まとめ

<腎臓病患者さんの実態>

- ✓ 病気や治療について、患者さんの認知度・理解度は低い。
- ✓ 腎臓病が発見されるきっかけは年齢が高くなるほど、他の疾患の治療中に発見される割合が増える。
- ✓ 現在保存期の方が、透析や移植が必要になった場合には、「医療従事者と相談して一緒に決めたい」と考えている方が多い。
- ✓ 透析導入にあたっては、「日常生活の変化」に不安を持っている。

<情報提供が果たす役割>

- ✓ 情報提供により、病気や治療について認知度・理解度が向上し、患者が積極的に治療に関わるきっかけとなっている。
- ✓ 腎臓サポート協会に入会した後の透析導入者では、入会時にすでに透析をはじめていた人と比べ、透析導入までの期間が長かった。

アンケートの結果より、保存期からの継続的な情報提供は、患者さんの病気や治療の理解を促し、治療への関わりを促進する上で、重要であることが示唆されました。今後も、医療機関で提供される情報や患者教育を補完する役割を、情報提供を通じて行い、腎臓病重症化予防、患者さんや家族の QOL 向上に貢献していきたいと考えます。